

WEB 監視システム Sweb

管理ユーザー用説明書 第1.1版

株式会社 測商技研

目次

1	はじめに	1
1-1.	本説明書について	1
1-2.	システム概要	2
1-3.	システム構成図例	3
2	管理概要	4
2-1.	システム運用前に	4
2-2.	リモートデスクトップの使い方	5
2-2-1	接続方法	5
2-2-2	切断方法	6
3	操作説明 DataMailer 編	7
3-1.	設定の流れ	7

4	操作説明 DataManager 編	8
4-1.	設定の流れ	8
4-2.	WEB 出力設定詳細.....	9
4-2-1	基本設定	10
4-2-2	出力アイテム選択	11
4-2-3	グループ管理	11
4-2-4	ユーザー管理	12
4-2-5	アクセス権管理	12
4-3.	WEB 画面のグラフスケールについて.....	13
4-4.	警報機能を有効にしたときの動作	14
4-5.	警報発生時のリセット操作	14
5	参考	15
5-1.	データのバックアップについて	15
6	動作環境	16

1 はじめに

このたびは、当社 WEB 監視システムをご利用いただきまして誠にありがとうございます。本システムを正しくご利用いただくために、ご利用前に本説明書を必ずお読みいただくようお願いいたします。

本説明書は「WEB 監視システム 管理ユーザー用説明書」です。本システムの管理・運用を行うための方法を説明しています。

※ WEB 閲覧時の画面・操作についての説明は、別紙「WEB 監視システム WEB 閲覧ユーザー用説明書」を参照してください。

1-1. 本説明書について

- ◆ 本書の内容は、改良のため将来予告なく変更することがあります。
- ◆ 本書の内容に関しては万全を期していますが、万一ご不審な点や誤りなどお気づきのことがございましたら、お手数ですが当社までご連絡ください。
- ◆ 本書の内容を無断で転載・複製しないでください。
- ◆ 本書にもとづいて本システムを運用した結果の影響・過失による損傷については一切責任を負うことはできませんので、ご了承ください。

1-2. システム概要

WEB 監視システム「Sweb」（以降：本システム）は、現場観測機器の測定データを WEB サーバーで収集・蓄積し、インターネット経由で各ユーザーの PC から測定データの確認・ダウンロード、グラフの表示・印刷が行えるシステムです。各ユーザーは WEB ブラウザを利用してデータを閲覧できるため、専用のソフトをインストールしたりする必要がありません。

本システムは管理者となるお客様のパソコンからリモートデスクトップ機能を使用して専用サーバーにアクセスし、サーバー上のデータ管理ソフト（DataManager）を操作するとその設定内容が閲覧用の WEB サイトに反映される仕組みとなっています。

DataManager では警報管理値の設定や、警報発生時に通報メールを配信する機能にも標準で対応しており、警報値や通報先メールアドレスの変更を管理ユーザー自身で行うことができます。

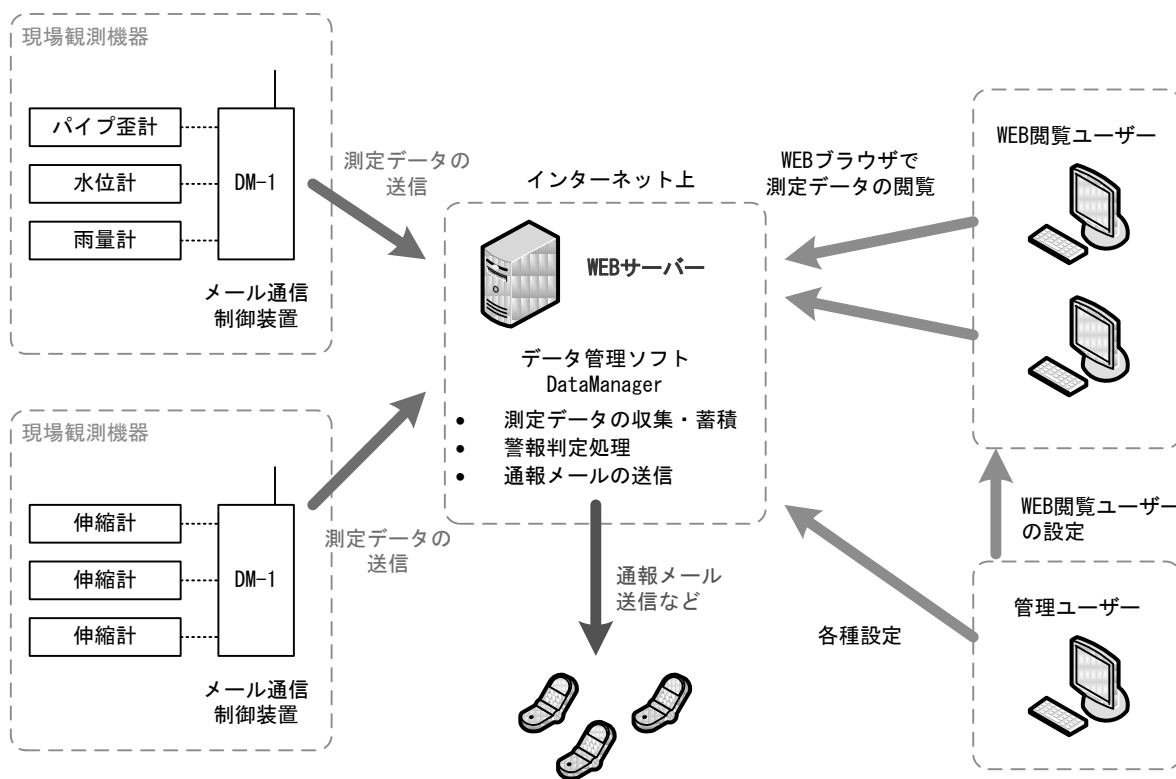
システムに当社製メール通信制御装置 DM-1 を組み込むことでデータ回収から WEB 出力までを全自動で行うことが可能です。

※リモートデスクトップ機能とは WindowsXP 以降のパソコンに標準でインストールされているソフトウェアです。

※DataManager は当社が無償で提供しているデータ管理ソフトです。

※DM-1 利用時にはデータメール受信ソフト DataMailer の操作及び DataManager との連携が必要です。ソフトウェアは無償でサーバーにインストール済です。

1-3. システム構成図例

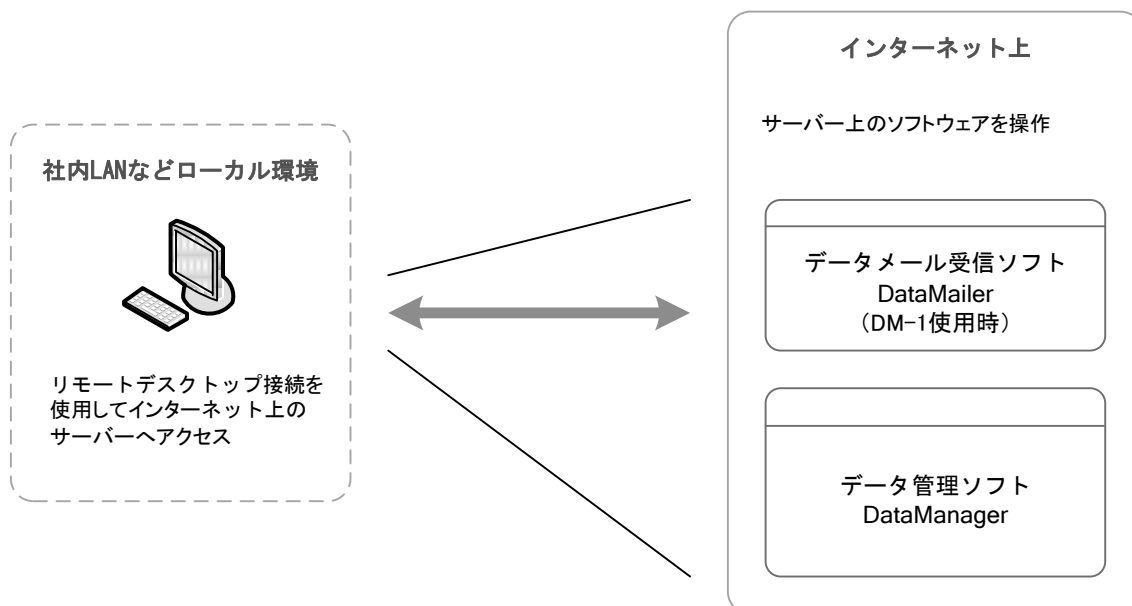


2 管理概要

2-1. システム運用前に

本システム運用前にシステムの管理担当者を決めてください。
システムの管理は主に次の内容となります。

- ◆ リモートデスクトップ機能を使い、専用サーバーへアクセス
- ◆ データメール受信ソフト DataMailer の設定
- ◆ データ管理ソフト DataManager の設定
 - ・ センサやカスタムグラフの登録・管理
 - ・ WEB 閲覧ユーザーの登録・管理
 - ・ 警報値の設定・変更・警報発生時の警報リセットなどの対応（警報機能使用時）
 - ・ 通報メールアドレスの設定・変更（通報メール機能使用時）



2-2. リモートデスクトップの使い方

2-2-1 接続方法

リモートデスクトップソフトを使ってサーバーへアクセスするには、次の手順で行ってください。

※ 社内 LAN やパソコンのファイアウォールなどでリモートデスクトップ通信を制限している場合は接続が行えないことがあります。その場合はシステム管理者へご相談ください。

※ 下記の説明は Windows 7 使用時の画面です。OS 環境により表示される画面が若干異なる場合があります。

1. スタートメニューから「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「リモートデスクトップ」を選択します。
2. コンピュータ名に弊社から指定されたドメイン名を入力し、「接続」をクリックします。

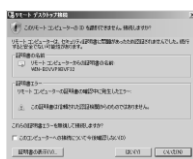
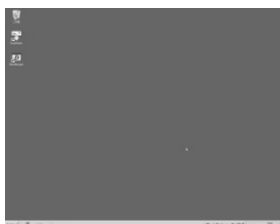


3. サーバーに接続され、資格情報入力の画面が表示されるので弊社から指定されたユーザー名およびパスワードを入力して OK をクリックします。



※ログインユーザーの一覧が表示された場合は、弊社から指定されたユーザーを選択し、パスワードを入力します。

4. ログインに成功するとサーバーのデスクトップ画面が表示されます。



※「このリモートコンピューターの ID を識別できません」とメッセージが出た場合は「このコンピューターへの接続について今後確認しない」にチェックを入れて「はい」をクリックすると以後、表示されなくなります。

2-2-2 切断方法

——注意——

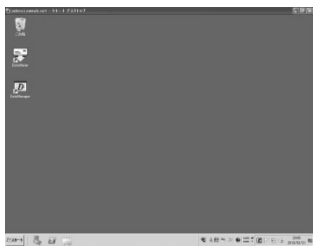
サーバーは 24 時間稼働状態での運用となるため、絶対にシャットダウン及びログオフ操作は行わないでください。また、DataMailer・DataManager も終了せずに起動した状態のままにしておいてください。

必ず次の手順でリモートデスクトップ接続のみ切断してください。

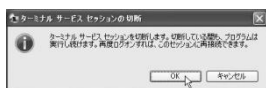
- ◆ リモートデスクトップを全画面表示にしている場合
画面中央上端にカーソルを移動するとタイトルバーが表示されるので、タイトルバーの右端にある「×」ボタンをクリックすると切断されます。



- ◆ リモートデスクトップをウィンドウ表示にしている場合
画面右上端にある「×」ボタンをクリックすると切断されます。



※ 確認ダイアログが表示された場合は「OK」をクリックしてください。



3 操作説明 DataMailer 編 (DM-1 使用時)

「データメール受信ソフト DataMailer」(以降:DataMailer)はメール通信制御装置 DM-1 から送られてきたデータメールを観測機器単位で管理するソフトです。



- ※ データメール受取用のメールアドレスが必要となります。
- ※ 本説明書では設定の流れのみを説明しています。具体的な操作内容についてはソフトのヘルプを参照してください。

3-1. 設定の流れ

1. メールアカウントの設定
データメール受信用アドレスのアカウントを設定します。
2. メール端末の追加。
メール端末は現場に設置したメール通信制御装置の台数分だけ追加する必要があります。
3. メールの自動受信の設定。
自動的に定期間隔でメールを受信するよう設定します。

- ※ すでに、現場観測機器及び DM-1 が稼働しており、1 通以上のデータメールが送信されている場合は「データメールの受信」を行うと、接続されている観測機器が認識され表示されます。

なお、DataMailer は常時起動させておく必要があるため、設定終了後もソフトを終了させないでください。

4 操作説明 DataManager 編

「データ管理ソフト DataManager」は DataMailer が受信したデータなどを取り込み、センサデータとして管理するソフトです。



※ 本説明書では一部の設定については設定の流れのみを説明しています。具体的な操作内容についてはソフトのヘルプを参照してください。

4-1. 設定の流れ

1. フォルダ・センサの追加。
フォルダに分けてセンサを追加し、DataMailer からデータを取り込みます。
2. 自動取込の設定。
各センサデータが DataMailer から自動的に取り込まれるよう設定します。
※DataMailer 以外の観測データを取り込む場合はデータのインポートを手動で行ってください
3. カスタムグラフの登録。
必要に応じてカスタムグラフを登録します。ここで登録したカスタムグラフを WEB 閲覧画面で表示することができます。
4. WEB 出力設定。
DataManager で管理しているデータを WEB 用に出力する設定を行います。ここでは WEB 閲覧ユーザーの登録なども行います。なお、この項目に関しては DataManager のヘルプに記載はありませんので、本説明書にて後ほど説明いたします。

この時点で一度、弊社より指定された WEB 閲覧用の URL（別紙参照）へブラウザでアクセスし、登録したセンサが表示されるか確認してください。また、観測機器の観測インターバル経過後に再度アクセスし、データが更新されるかも確認してください。

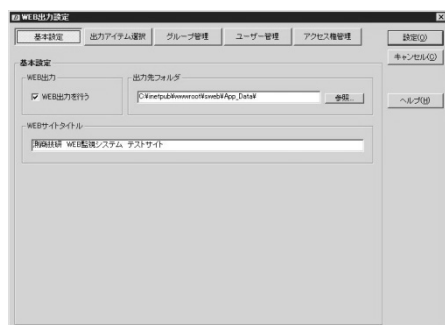
以降 5～8 の手順は警報機能を使う場合のみ必要な設定です。
警報機能を使わない場合は、読み飛ばしてください。

5. 警戒レベルの設定。
必要に応じて警戒レベル数・各警戒レベルの名前を設定します。
6. 警報値の設定。
必要に応じて各センサに対して警報値を設定します。
7. 通報メール機能の設定。
必要に応じて通報メール機能を有効に設定します。また通報先メールアドレスや通報メッセージの設定を行います。
※通報メール用のアカウントは *DataMailer* で設定したデータメール受信用アカウントを使用することをお勧めします。
8. 警報監視モードの開始。
最後に警報監視モードを開始することにより警報機能が有効になります。

なお、DataManager は常時起動させておく必要があるので、設定終了後もソフトを終了させないでください。

4-2. WEB 出力設定詳細

メニューの「WEB 出力」→「WEB 出力設定」をクリックすると、WEB 出力設定ダイアログが表示されます。



以降で各設定ページの詳細について説明します。

4-2-1 基本設定

「基本設定」ページでは WEB 出力に関する基本的な設定を行います。
各項目は次のような設定内容となります。



WEB サイトタイトル： WEB 画面のタイトル欄に表示されるタイトルを入力します。現場名等任意の名前を入力してください。

WEB サイトタイトルはここに表示されます



4-2-2 出力アイテム選択

「出力アイテム選択」ページでは WEB へ公開するセンサ及びカスタムグラフを選択します。



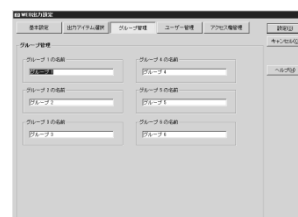
チェックが付いているセンサ・カスタムグラフだけが WEB へ公開されます。

- ※ フォルダに対してチェック ON/OFF 操作を行うと、そのフォルダに属している全てのセンサに対しても同じチェック操作が行われます。
- ※ デフォルトではチェック ON (WEB へ公開) の設定になります。
途中でセンサやカスタムグラフを追加した場合、必要に応じて設定を見直してください。

4-2-3 グループ管理

「グループ管理」ページではユーザーグループに対して任意の名前を付けることができます。

ユーザーグループとは、後述のアクセス権を設定するためのグループです。グループ毎に WEB 画面でどのセンサを閲覧可能にするか制限を設けることができます。標準で 6 グループに対応しています。



- ※ グループ名は DataManager 内で設定を管理する上で分かりやすくするためのものです。
必須項目ではありません。

4-2-4 ユーザー管理

「ユーザー管理」ページでは WEB 閲覧ユーザーを管理します。WEB 閲覧ユーザーはここで登録されたユーザー名とパスワードを使って WEB 画面にログインすることになります。



- ユーザーの追加 ユーザー名とパスワードを入力しユーザーグループを選択します。「追加」ボタンをクリックするとユーザー名一覧に追加されます。既に同じ名前のユーザーが登録されている場合は追加できません。
- ユーザーの編集 ユーザー名一覧から編集したいユーザーをダブルクリックします。ユーザー名とパスワード欄に内容がコピーされるので、内容を編集し「上書」ボタンをクリックしてください。
- ユーザーの削除 ユーザー名一覧から削除したいユーザーをクリックして選択し、「削除」ボタンをクリックします。

同一のユーザー名とパスワードを複数人で利用することも可能です。

4-2-5 アクセス権管理

「アクセス権管理」ページでは各グループ毎のアクセス権を設定できます。

アクセス権を設定することにより、グループ毎に WEB 画面でどのセンサを閲覧可能にするか制限を設けることができます。



また、アクセス権はセンサ単位だけでなく、センサのデータタイプ（日変位や月変位）毎にも設定可能です。

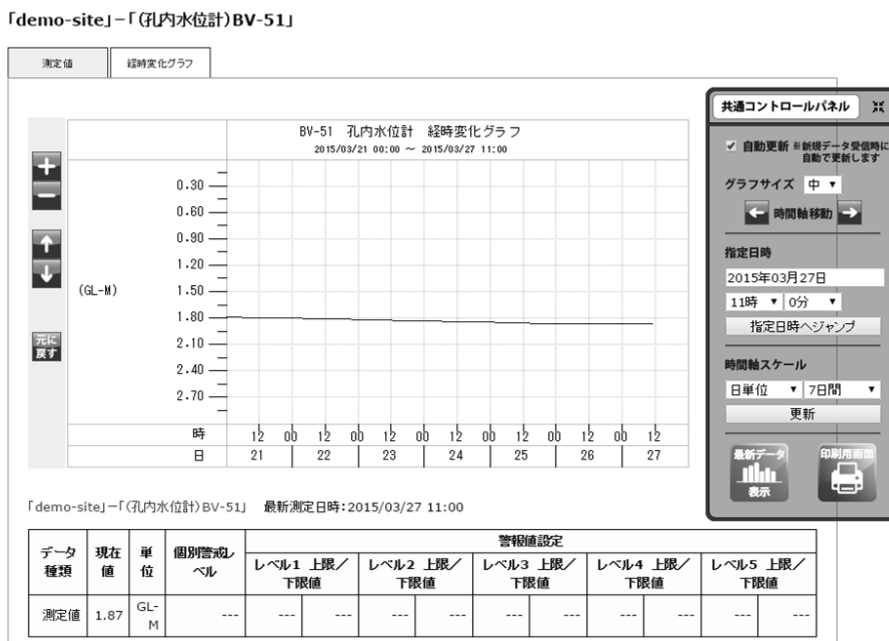
※ カスタムグラフで複数種類のセンサのグラフを登録している場合、アクセス権が無効にされたグラフは表示されなくなります。カスタムグラフ内の全てのセンサに対してアクセス権がない場合はカスタムグラフそのものが表示されません。

4-3. WEB 画面のグラフスケールについて

WEB 画面に表示されるグラフの縦軸や時間軸のスケール値は DataManager で設定されているスケールがデフォルトとして表示されます。

そのため、DataManager 側で各グラフのスケール値を適切に設定してください。

※ 縦軸スケール値については WEB アプリケーション側既定のスケール値に近いスケールが自動的に選択されるため、全く同じスケール値にならない場合があります。ご了承ください。



4-4. 警報機能を有効にしたときの動作

DataManager で警報機能を有効にすると、WEB 画面にも警報情報バーが表示されるようになります。

警報監視中 <警報履歴表示>	現在警報は発生していません。
-------------------	----------------

警報情報バーには現在の警報状況が表示されます。

また、警報が発生すると警報情報バーが点滅動作をします。

WEB 画面の警報情報バーの点滅動作は DataManager の警報情報バーと連動しており、DataManager 側で警報情報バーのリセット動作を行うと、WEB 閲覧画面の警報情報バーもリセットされます。

※ WEB 画面の表示は WEB ブラウザがページを読み込んだ時点の情報が表示されるため、場合によってはページのリロードを実行しないと警報情報バーが更新されないことがあります。

4-5. 警報発生時のリセット操作

WEB 画面の警報情報バーの状態は DataManager の警報情報バーと連動しています。そのため、警報発生後にリセット操作を行うには、管理ユーザーが DataManager を操作する必要があります。

警報発生後に必要なリセット操作には主に次のような操作があります。

- ◆ 警報情報バーの点滅停止
- ◆ 警報状態のリセット
- ◆ 異常値状態のリセット

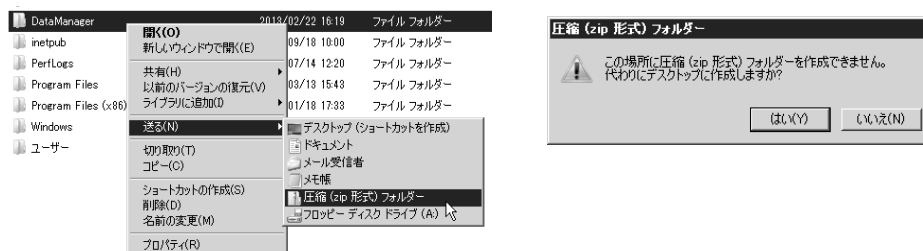
※ それぞれの操作については DataManager のヘルプを参照してください。

5 参考

5-1. データのバックアップについて

万一に備えてデータのバックアップを取るようにしてください。

1. サーバーへリモートデスクトップでログインします。
2. DataManager を一旦終了します。
3. C ドライブ直下にある「DataManager」フォルダ上で右クリックします。
4. 表示されたメニューから
「送る」－「圧縮 (Zip 形式) フォルダ」を選択します。
メッセージがでてデスクトップ上にフォルダ作成するか確認されるので
「はい」をクリックします。



5. デスクトップ上に「DataManager.zip」という圧縮ファイルが作成されるので、そのファイルを右クリックし「コピー」を選択します。
6. リモートデスクトップソフトを最小化し、クライアントパソコンのデスクトップ上で右クリックをし「貼り付け」を選択するとサーバー上の「DataManager.zip」ファイルがクライアントパソコンへコピーされます。
このファイルがバックアップファイルとなります。
7. 再度リモートデスクトップソフトを最大化し、DataManager を起動してください。

6 動作環境

——対応 OS——

WindowsXP、WindowsVista、Windows7、Windows8

※ リモートデスクトップ機能を使ってサーバーへアクセスするため、ファイアーウォールなどで通信を制限している場合は、リモートデスクトップの通信を許可するよう設定してください。

——サーバーOS——

WindowsServer2008R2 または WindowsServer2012R2